

【Profile】

福岡在住、写真愛好家
歴史の中で逞しく「脈々と息づく人と街」をテーマに
本業の傍ら海外、地元など人の営み、街風景を撮影
個展発表を中心に活動 モノクロームとパステル
トーンの独自の表現世界を追求中

【My Style】

永年写真を取組んできて約30年、20年前にはデジタルと出会いその可能性を直感し、写真の新たな表現なども模索してきました。そんな中、巷では色彩の傾向として極彩色が強くなってきており、時には到底現実には有り得ないような色も見受けられる程になりました。この傾向はデジタルカメラ全盛になってより強くなり、またプリンターメーカーの開発方向性も同様に感じられます。やはり自分が表現したいものを探めて、その手法や機材の選択などが必要なのでしょう。

いずれにしろ、この傾向はどうも私の好みではなく、淡いパステル色調か、色をイマジネーションするモノクロームの世界が私にはぴったりくるようで、モノクロームフォトとパステルフォトという手法にたどりつけました。

【Camera, etc】(今回使用機材)

FUJIFILM X100S, FUJIFILM X-E1
Fujinon XF35mm f1.4R, XF14mm f2.8R, XF18-55mm f2.8-4R
EPSON PX-5800, Adobe Photoshop, LightRoom, iMac 27inc

【個展歴】

2007年 7月 九州日仏学館 「巴里散策」モノクロフォト展
2007年10月 NHKギャラリー 「巴里の空の下」モノクロフォト展
2008年 3月 九州日仏学館 日仏交流150周年「変わらぬ永遠のパリ」
2008年 5月 アクロス福岡 「巴里の空の下」モノクロフォト展
2008年 9月 NHKギャラリー 「パステルフォト展」
2008年10月 赤煉瓦文化館 誕生百年歳出展「パステルフォト展」
2008年11月 福岡国際ホール 「パステルフォト展」
2009年 2月 赤煉瓦文化館 誕生百年歳出展「モノクロフォト展」
2010年 4月 福岡天神LOFT 福岡アーティスト展「モノクロフォト展」
2012年 5月 福岡市美術館 ベトナムスケッチ「黄色の街」ホイアン

Homepage [Http://photoartplan.com](http://photoartplan.com) 検索 牧瀬英喜
Blog [Http://myfilter.exblog.jp](http://myfilter.exblog.jp)



「祈りと微笑み」の地 ラオス ルアンプラバーン

牧瀬 英喜 写真展

●会期／2014年11月18日(火)

-->11月24日(月・祝)

am 10:00 --> pm 6:00

●会場／福岡県立美術館

福岡市中央区天神5-2-1

(須崎公園内、市民会館前)

tel 092-715-3551

※入館はpm5:30迄、入場無料

●後援／ラオス情報文化観光省

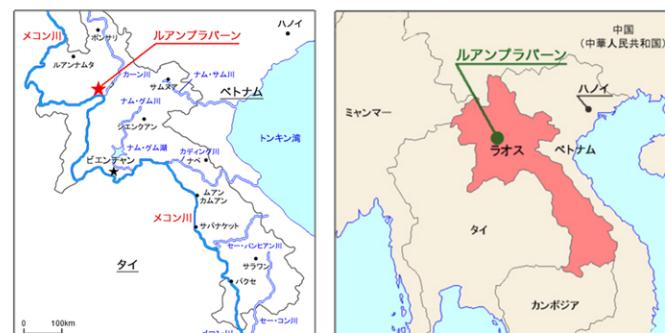


【ラオス基本情報】

・ラオス人民民主共和国、通称ラオス、1975年王制廢止、社会主義共和制国家樹立
・国土面積236,800km²、東南アジア唯一の内陸国、70%が山岳地帯の森の國、メコン川が南北に貫く
・熱帶性モンスーン気候、人口656万人、人口密度24人/km²・宗教は60%が仏教、40%が精靈信仰等
・主要産業は人口の78%が従事する自給型農業(GDPの41%)、良質のコーヒーは最大の輸出農産物
・メコン川は便利な水運であると共に、藻類やプランクトン等に恵まれ豊かな漁場を提供する

【ルアンプラバーン概要】

・世界文化遺産の街、ラオスの礎となるかつてのランサーン王国の都、人口約3万人
・ラオス北部に位置しメコン川とカーン川が合流する、半島の形状を成した山間の街
・王朝時代の仏教文化の足跡が偲ばれ、60を超える寺院と「托鉢」が今尚息づいている



「祈りと微笑み」の地 ラオス ルアンプラバーン

牧瀬 英喜 写真展

会期／2014年11月18日--24日

会場／福岡県立美術館



大河メコンの上流に位置する悠久の古都
その地の日々は祈りと微笑みではじまる

「祈りと微笑み」の地 ラオス ルアンプラバーン

チベット高原の源流からおよそ2000km母なるメコンは国境を越えラオスへ流れ込むその赤茶けた水の恵みに抱かれた山あいの街かつての都ルアンプラバーンで日々目にする托鉢と喜捨の姿は旅人の心に奥深く浸透したそんな様を真摯に目線を合わせ写しとめた「祈りと微笑み」溢れる作品をご覧下さい

Hideki Makise

脈々と息づく人の営みを撮るべくこの地に赴き実感したのは人との繋がりの中で生きる彼等の穏やかな空気感だった 今尚人々の真ん中には「仏」の心があり 温かな結びつきを生み出すそんな「共に息づく情景」の姿を目線を合わせ真摯に写しとめたいとシャッターを切り続けた



「微笑み」

慎み深い心を尊び競争心や敵対心など忌み嫌う価値観 そんな世界はグローバル社会に生きる我々をホッとさせ幸福観を再確認させるこの地全部が醸し出す素朴で穏やかな空気感 そんなものに抱かれて撮らせて頂いたカット

「メコン」

人々はメコン川と共に日々を営み「大河の一滴」の如く脈々と息づいている アジアの中でも最貧国であるラオス しかし そこでは水と緑の豊かな自然に恵まれ 物乞いや餓死などは見られない正しく「貧しさの中の豊かさ」というものだろう



「托鉢」

早朝夜明け前から脈々と繰り返される日々の営み この狭い古都の街に60以上の寺院が密集する そこそこに居る老若幼の修行僧達が同じ時間帯に一斉に街中に出てきて托鉢僧達の行列が連なる それ等が肅々と進んでいく光景は実に実に圧巻だ

「祈り」

大勢の老若幼の僧侶たちを喜捨で支え そして僧侶を介し皆に廻る構造 仏の心を核とした共同体における「食の循環」そんな世界を強く実感した日々夜明け前から色々と準備し祈りと共に供える 托鉢も喜捨も大変な事ではなく喜びの行為なのだ

